

tam tam

2022.03

VOL.

15

P1 〔特集〕団体運営の知識と技術

P2 〔特集〕センターの相談対応から見えるもの
地域づくり講座「ちいきの豆ちから」

P3 隣の自治協さん「遠販自治協議会」
丹波市民、学びの窓「対話と協働とSDGs」

P4 繋ぐ！市民活動「スポーツクラブ 21 氷上東」
活動事業者紹介「竹内薬品」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

団体運営の知識と技術



市民活動支援センターでは窓口や団体を訪問した際に、市民活動や地域づくりに関わる様々な相談をお受けしています。その困りごと・悩みごとの解決に必要な知識や技術を得られ、お互いに学び合うことができるよう、センターでは「地域づくり講座（ちいきの豆ちから）」を企画・開催しています。今年開催した講座では「超初級！簡単デザイン」「みんなが集う場づくり」について、実例を交えながら学び合いました。参加者は、自ら作ったチラシに講師からアドバイスをもらったり、場づくりにあがちな事例を材料に意見交換するなど、参加者同士で共通した困りごとの解決に熱心に取り組みました。

自治会やPTA、老人会など地域の団体はたくさんあり、スポー

ツクラブや地域のサークル、ボランティアグループなどの共通のテーマで集まっている人も少なくないと思います。これらの活動を続けていくためには、会場準備、会議、会計、宣伝、イベント運営、参加者募集などの実務が必要となります。さらにチラシづくり、場づくり、名簿管理、情報発信、SNS の活用などには知識や技術が必要なこともあります。必要となる知識や技術は団体によって違うかもしれませんが、これらは、団体が継続的に活動していくために必要な基礎体力にあたります。

今回の特集では、センターの相談対応から見てきた市民活動団体を持続的に運営するために必要な知識や技術をどのように確保していくのかについて考えます。

※「市民活動団体」…市民が主体的に、非営利で公益性のある活動を行う団体のこと。さまざまなテーマ・分野で地域や社会に貢献する活動や、今回は自治会等の地域づくり活動を担う団体を含めて指します。



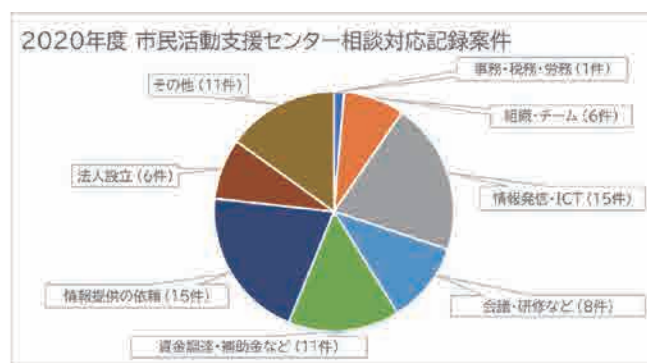
丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

Topics 01 センターの相談対応からみえるもの

2020年度、市民活動支援センターでは些細なことも含め約1,200件の相談をお受けしてきました。そのうち、具体的な内容を記録した73件の相談を分類すると、情報発信や資金調達、組織づくりや法人化などの相談が多くみられました。また、2021年度の相談内容をみても、団体の実務に関する相談は20件以上あり、新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインを活用した会議やイベントの相談も目立ちました。

団体にとって、運営に必要な実務を専門家に任せる方法もあります。最近では仕事のスキルを活かしたボランティア「プロボノ」が市民活動団体を支援することもあります。また、自分たちの活動に専門的な知識や技術を持つ仲間を誘う方法もあるかもしれません。自治会やボランティアグループで、「会計は行政職員や金融機関で働いている人に頼めばいいよね。」という話を聞くことがあります。確かに得意な人をお願いすることも1つの方法です。人を頼ることで、仲間を増やしたり巻き込んだり、求心力が出たりすることもあるので、困っていることやサポートして欲しいことを周囲に発信することも重要な技術だといえます。

また、不得意なことでも、まずは自分たちで学ぶことで解決できることもあり、それは個人のスキルアップにもつながります。プロ並みの知識や技術を習得するには時間もお金も必要ですが、様々な分野の実務の基礎を学ぶことで、より良い活動につながります。団体の皆さんで、基礎的な知識、技術を共有することは、役割を交代する時や不測の事態でも対応力が違います。団体の継続的な運営のためには、個々人のスキルアップが重要です。



Topics 02 地域づくり講座「ちいきの豆ぢから」



「超初級!簡単デザイン講座」

今年2月の講座では、普段からイベントや活動の告知、メンバーや寄付の募集などチラシやポスターを作成することがある参加者が集まり、「超初級!簡単デザイン講座」を開催しました。講座では、デザイナーとしても働いているセンタースタッフが講師となり、デザインするとき、タイトル、概要、日時、場所、参加方法、連絡先など、「誰が」「何を」「誰に」「どのように」を情報整理することや、デザインは思いやり、1枚に多くの情報を詰めすぎると伝わらなくなること、情報整理の大切さを学びました。

3月には、子ども食堂を運営するセンタースタッフが講師となり「みんなが集う場づくり」をテーマに講座を開催しました。「参加者をお客さんにしない!」と心掛け取り組むことで、「困っ



「みんなが集う場づくり講座」

たことは広く協力をお願いしてみる!」「意外と助けてくれる人が現れる」「参加者がいつの間にか協力者になっていた」といった事例を聞きました。関わる人を増やしながらメンバーで多様な意見を出し合い、柔軟に楽しみながら活動することが長続きする場づくりの秘訣であるということを学びました。

この講座の名称には、「1つ1つは小さいが、揃えば存在感があり、1粒ずつの質を上げればメニューを豪華にできる。1人ひとりがそんな団体や地域の魅力的な“豆”を目指してほしい」という願いを込めています。様々な学びの場を活用しながら、まずは自分から自分の質を上げることを考えてみましょう。

隣りの自治会さん

TONARI no
JICHIKYO san

遠阪自治協議会

住民すべてが一丸となって進める地域づくり

遠阪自治協議会は、青垣地域の北部の旧遠阪小学校区に位置し、人口約 900 人、300 あまりの世帯、13 自治会で構成されています。丹波市でも最北部で、遠阪峠を越えれば朝来市へとつながり、丹波と但馬、丹後をつなぐ街道の要所として栄えてきました。

加古川の最源流である遠阪川に沿って南北約 10km に渡って集落を形成している遠阪地域は、環境省が定める「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選ばれ、次世代に残していくべき自然環境の 1 つであると位置づけられました。恵まれた自然資源を活かして、セツブン草自生地の公開やホテル鑑賞会を開催したり、地域内にある「青垣いきものふれあいの里」や「今出せせらぎ園」などの施設と連携して、地域内外への積極的な地域の PR を進めています。

地域資源を活用し、新しいことにチャレンジ

山垣城を築いた足立遠政の墓や、はだか祭で有名な熊野神社など地域の魅力がたくさんあります。ただ、地域コミュニティの中核の 1 つであった遠阪小学校は 2017 年に廃校となりました。現在は、利活用する事業者を募集するとともに、スポーツチームのグラウンドの利用や住民のイベント利用なども実施しています。最近では、地域内に移住された方を講師にヨガ教室を開催し、地域住民の皆さんに大変喜ばれています。

地域コミュニティ活動推進員の山本正司さんは「地元に住む私も知らなかったことがたくさんある。地域のことを知れるきっかけになるような事業を実施していきたい。」と考えています。今年 2 月には、ホームページを新たに立ち上げました。情報収集や記事の作成は、自治協議会の役員や地域住民の皆さんで進めていこうと新しい部会も作り、一方向の情報発信ではなく双方向の情報のやり取りになることを目指しスタートしています。



旧小学校に老若男女が集まったヨガ教室



住民から提供されたキジと拠点施設の写真

丹波市民、学びの窓

対話と協働と SDGs

SDGs（エスディージーズ）とは Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」の略称です。2015 年の国連サミットで、世界の「持続可能な開発」のために 2030 年までに達成したい世界共通の目標として誕生しました。

SDGs は 5 つの特徴と 17 のゴール（目標）と 169 のターゲットから構成されています。5 つの特徴とは、①全世界で取り組むこと、②誰一人取り残さないこと、③積極的に参加すること、④社会、環境を守りながら経済発展すること、⑤成果を確認しながら取り組むことです。17 のゴールは SDGs の最も大切な考え方ですが、個々のゴールはそれぞれ独立して存

在するものではなく、互いに密接に関連しています。あるゴール達成のための行動が他のゴールを阻害することもある、複数のゴールに好影響を与える活動もあります。17 のゴールが、すべてつながっていて、1 つのゴールを達成するためには、他の目標とのつながりを考えなければならないことを理解する必要があります。

地域づくりとは、住民や行政という立場に関係なく、その地で暮らす人々が自らの力で、みんなで取り組むことですが、互いに関与しない姿勢がみられることもあります。住民、自治組織、その地域にある事業者や市民団体、行政が対話し、それぞれ

関係者の生活や事業目的、または地域全体が目指す姿を意識して協働することで地域全体が活性化できれば、自分の幸せと関係者の幸せが一体となっていることに気づくでしょう。住民、事業者、農家、行政、NPO、自治会、商工会、農協、学校などの個別の立場や組織を越えて、地域づくり、産業、環境、教育、医療、福祉、防災などの領域を越えて、誰一人取り残さない持続可能な地域の未来を実現するために、対話し協働することが大切です。



17 のゴール（目標）アイコン



楽しく！市民活動

スポーツクラブ21 氷上東

兵庫県ではスポーツを通じた地域コミュニティづくりを進めるため、2000 年度から県内の小学校区に総合型地域スポーツクラブが設立されており、丹波市内にも 25 のクラブがあります。

その1つ、スポーツクラブ21 氷上東は、氷上地域の東小学校区を中心に少年野球やサッカーなど 11 種類の「サークル」、スポーツ体験や文化的な催しの「教室」、キャンプやフェスティバルなどの「イベント」の 3 本柱の活動があります。

昨年は大学生や専門学生の地域づくり活動を支援する取り組みとして、関わってくれた学生の得意なことを活かし「リースづくり教室」を実施しました。スポーツだけでなく、得意なことがある人たち

が活動できる機会を作っています。

また東小学校や PTA、生郷自治振興会と協力して「まちの灯りフェスティバル」を開催し、地域交流にも積極的に取り組んでいます。会長の片山佳織さんは「まずは実施する側が楽しむことを大切に活動しており、その事業を通して、クラブの理念にもある 10 年 20 年先の人材育成、地域のコミュニティづくり、地域交流にもつながれば」と語ります。

現在は新型コロナウイルスの影響で実施できていない活動や教室の再開に向けて準備しており、10～20 代の若者が地域づくりに参加できる取り組みも広げようとしています。



大学生・専門学生の得意を活かしたリースづくり教室



地域と連携したまちの灯りフェスティバル



活動事業者紹介

竹内薬品株式会社

竹内薬品株式会社は、1979 年に山南地域で創業しました。家庭医療を支える医薬品配置販売業（置き薬）を生業とし、兵庫県、京都府北部、福井県南部へ訪問しています。

身分証を持った配置員が定期的に各家庭に訪問し、置き薬の補充・交換や、体調やお悩みに合わせたお薬やサプリメントの提案など健康をサポートしています。また訪問の際には、暮らしの様子は普段と変わりはないか、ひとり暮らしの方の顔色や声色に変化はないかなどを気にかけて、地域や住民を見守る思いも大切にしています。

最近では京都府綾部市内での医学を基

礎とするまちづくり（MBT プロジェクト）の取り組みに携わり、「御用聞き」生活支援サービスに参加しています。各家庭へ定期訪問の際、困っていることがあれば聞き取り、対応相談や見積りについて、御用聞きセンターを通じて綾部市内の提携企業や行政などにスムーズにつながるように橋渡しをしています。現在はお困りごとの対応が主ですが、このつながりを基盤として、産学官の連携で医療面の健康支援体制を構築し、高齢者世帯やひとり暮らしの方を見守り、離れて暮らす家族の安心にもつながればと考えています。

綾部市だけでなく丹波市でも地元企業

がどのように地域に関わっていけるか、地域に求められていることを模索しながら、これからも地域に寄り添い、健康・長寿を応援していきます。



配置員と地域のお客様



お客様の症状やお悩みに適した配置医薬品を提案



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。